

# 自主の旗

日教組和歌山  
第500号  
2001.7.17  
編集部発行  
☎073-436-6820

組員西配布

七月二十九日(日)は参議院選挙の投票日です。夏休みです。早いめに不在者投票に行きましょう。あと十日あまり。知人・友人には電話等で神本みえ子へ支援を伝えます。



日教組和歌山に集う組合員は三二二名です。なかなか思い通りにはすまない組織拡大ですが、この一年間は講師さんの組合加入がふえています。教育のことをまじめに考え、情熱をもつてとりくんでいる若者がたくさんいることに大いに勇気づけられます。今、組合は何を期待されているのでしょうか。組合が担うべき課題について、桂正孝先生にご意見をうかがい、500号の記念記事としました。

## 地域で地球市民を育てよう

### 二一世紀・学校改革の課題

桂正孝



熱いメールを送ります。

今、わたしたちは、大人も子どもも、歴史の分水嶺に立っています。わたしたちの生き方・学び方・働き方がこれからの日本社会の進路を決めてしまいかねない、歴史的選択のターニングポイントに立っているのではないでしょう。

ご存知のように、一九八九年の「ベルリンの壁」崩壊に端を発し、ソ連・東欧の社会主義体制が終焉しました。それによって、世界経済のグローバル化が急速に進み、市場経済の大競争時代に突入しました。加えて、情報化の進展により、地球社会が小さくなりました。

こうした、アメリカを基軸としたグローバル化の動きに対して、ヨーロッパではEUを基盤に、単一通貨「ユーロ」を流通させて、社会保障・環境保全などの社会政策の実現に向けて共同で取り組んでいます。

他方、日本は、グローバル化への対応を怠り、経済のバブル化と崩壊を招き、未曾有の経済的破局の淵に立っています。膨大な公的資金を投入しても金融不安はおさまらず、失業率も四・九%（五月の労働力調査）に達し、雇用不安が高まっています。セイフティ・ネットの未形成のために、リストラや倒産に起因する中高年層の自殺が激増しています。

戦後日本を支配してきた政・官・財界の「護送船団方式」も「システム疲労」をおこし、医療や警察、司法を含む至るところで、モラルハザード（倫理性の欠如）が蔓延しています。

そうした混乱した世相の中で、たとえば受験エリートをも巻き込んだオウム真理教事件のような無差別殺戮の犯

罪が出現しました。また、バブル経済の中で生育した思春期の子どもたちは、生きることの意味と展望を見失い、「神戸小学生連続殺傷事件」を契機に「七歳の闇」の事件に至るまで、社会を震撼させるような痛ましい事件を続発させています。今や、日本の安全神話は崩壊したといえるでしょう。

この「失われた十年」の混沌にいらだち、そのよりどころをナシヨナリズムに求める回帰傾向が強まっています。現に、昨今話題になっている歴史教科書を中心に、日本の近代化の歴史認識の修正を試みる、偏狭なナシヨナリズムの台頭が顕著になっています。それは、再び、歴史に逆行した「単一民族国家神話」にしがみつき、自文化中心主義的国家体制を構築しようとする、アジアの中の孤立化路線であり、東アジアの平和的共生をつくりだすことはできません。この歴史の健忘症は、日本に定住する一五五万人を超える外国人のエスニック・マイノリティと、海外にいる邦人八〇万人の存在を無視するだけでなく、「憲法」の基本的な人権、平和主義や民主主義の精神を形骸化する立場に立っているのです。

日本の経済を支えてきた近代学校システムが、情報化に伴う産業・職業構造の激変と地域社会の解体化、家庭の教育力の弱体化の中で空洞化し、パラダイム（思考の基本的枠組み）の転換を迫られていることは否定できません。このような現状認識から、教育に対して、グローバル化時代の人権・平和・共生・福祉・環境の教育実践を創造し、まちづくりの一環としての教育コミュニケーションづくりと結合することが要請されています。とりわけ、情報化社会の急速な発展

は、人間関係を希薄にさせ、生活体験を擬似化し、自尊感情を傷つきやすくします。楽しい夢や人生の展望がもたず、孤立した卑小な生活世界の中に遁走しがちな子どもたちに、世代間の出会いと対話をすすめる、自立を支援する居場所を用意し、この激変転換期をしなやかに生き抜く力を育てる、生涯学習としての新たな学校教育システムを立ち上げることが、地域教育改革の課題となっています。

学校五日制完全実施を来年に控え、総合的な学習の時間を舞台とする人権総合学習や多文化学習、メディア学習をはじめ、環境学習、キャリア学習、ボランティア活動など、参加体験型学習をカリキュラムの中に位置づけ、学校が地域の子育てと生涯学習の一翼を担うことが切実に求められています。

日教組和歌山に結集されているみなさんが、育ち盛りの子どもたちの夢を育て、学習力を高め、親の子育てを支援する教育の仕事で、専門的な技量・力量を発揮され、教職員と地域の人々の信頼を勝ち取り、教育連携を広げ、学校空間を地域のコミュニケーションづくりのよりどころにしてください。心より期待しております。

#### 桂正孝さんのプロフィール

- \* 宝塚造形芸術大学教授
- \* 大阪市立大学名誉教授

桂先生には、日教組和歌山を支える学者ネットワークのメンバーとして、私たちの教育研究や実践面での助言等、ご支援いただきたいと思います。